

Ⅲ. ケアメン・コミュニティのマネジメントと支援の課題

—シンポジウムのまとめにかえて—

コーディネーター 津止 正敏

ありがとうございました。こうやって聞いていくと、もっともっと中身のあ
る、深みのある議論になっていくと思いますが、残念です。時間がないんです
ね。私、ほかに、例えば「どういうイベントが求められていますか」とか、
あるいは「皆さま方が運営しているときに、世話人のなり手がいないんだけれ
ども、どういう方々が世話人として活動していますか。その世話人の活動内容
にはどんなものがありますか」ということも教えてほしいなと思ったりします。
あるいは、主催団体の対応で、夜の部の交流会で少しお話しいただいたらいい
と思うんですけども、今日、発表頂いたところは、家族の会が立ち上げたと
ころもあるし、行政の健康長寿課や社協さんがやっているところもあれば、医
療生協の老健施設がつくったところもあります。全国にはほかに、地域包括
支援センターがやっているところもあれば、NPOが主催しているところも、
男女共同参画センターが立ち上げているところもあります。男性介護者の会や
集いの動機も、きっかけも、ものすごく多彩になっています。目的も多様です
よね。「虐待防止のための男性介護者支援」と言っている福祉分野もあれば、「男
性の新しい生き方モデルだ」と推奨している男女共同参画センターもあります。
問題を起こしそうな介護者としての男性の見方と、いや、時代の先端を走って
いる男性の姿という、こういう両極端な評価で会や集いを行なっている団体も
あります。そういう多様な実態を考えますと、私たちの男性介護者と支援者の
全国ネットワークが提案している、介護している男性たちの声に耳を傾けよう、
介護体験を語る機会をたくさんつくっていかう、そういったところは今の時代
に最も必要な領域なのかなと思ったりもするわけです。ぜひ、皆さん方の地域
の中でも、その地域の実情に応じた取り組み方を強化してほしいと思っています。

それから、支援の問題でいろいろ出ましたけれども、先ほどのお話を聞いて、
介護している男性たちを支援しようとする、あるいは働きながら介護している

方々を支援しようとするときに、もう単体の支援策ではほとんど間に合わない時代だと思うわけです。単体の支援策では間に合わないんです。いくつもの単体の支援策を組み合わせる支援をしていくようなコーディネートの役割、私は支援策の「カスタマイズ」と言っているんですけども、標準化されたいろいろな制度を幾つも集めて、それをその人に合わせたように修正していくというか、カスタマイズしていく、そういう取り組みをしないことには、今、私たちが抱えている問題はなかなか解決しないのではないかと思います。むしろ、私たち専門職もカスタマイズ能力に欠けているし、私たち自身も知らないです。いろいろな制度があるけれども、それを組み合わせればこんなこともできます。あるいは、こんなことを少し修復していけば、こういう新しい支援もできますということを、段階的に考えていくことが大事かなと思います。

明日（2015年3月8日）、男性介護者と支援者の全国ネットワークの総会を午前中に開いて、午後には記念講演を開くんですけども、そのときの資料で、京都府の「仕事と介護両立支援ガイドブック」というパンフレットを提供します。これは京都府の男女共同参画課がつくったガイドブックなんです。男女共同参画課が仕事と介護の両立支援のガイドブックをつくったというのが、みそなんです。それは、介護保険の担当課でもない、雇用の担当課でもない、男女共同参画のセクターが仕事と介護の両方にまたがるような支援策を考えてガイドブックをつくったということです。行政のほうでも、厚労省の育児と仕事の両立支援は、雇用均等・児童家庭局という一つの局の中で成り立っているんです。仕事と介護の分野は、仕事の分野は雇用均等の局でやり、介護の分野は老健局でやります。厚労省の枠の中で、仕事と介護の分野は別々の局が担当していて、それをすり合わせて一つのものをつくりあげていくことになっていないので、育児の分野に比べたら随分遅れているのだらうなと思ったりするわけです。せめて、私たちは、仕事と介護の分野を言おうとすると、育児期なみの支援策、40代、50代、60代の中老年の男性たち、あるいは女性たちも含めてですが、仕事と介護の両立を必要としている方々には育児期なみの支援策が必要だと思います。育児期なみの支援策というのは、働き方を支援することと、保育を支援するという、この二つが接続され、組み合わせられた支援の仕組みです。育児休業があるだけでは事足りない、あるいは、保育所があるだけでは事足り

ないんです。その二つが合体されて、お父さん・お母さんの働き方を支援し、子どもたちの保育をしっかりと保証していこうということです。

介護の分野でも同じだろうと思うんです。介護休業だけで私たちの仕事と介護の両立がなりうるはずもないんです。介護サービスだけで仕事と介護の両立支援がありうるはずがないです。その両方が相まって、初めて私たちが求めていくような方向性がきちんと出せるんだなと思います。そのことを少し整理しながら問題提起をしていくことが大事かなと思います。私は、支援の組み合わせ策、支援の組み込み方ということで考えて意見の発信をしている最中です。そのことについても、皆さん方と一緒に検討できるような場をつくってみたいと思っているわけであります。

今日は、2時から始まって3時間、一体どうなるものかと思ったんですけども、皆さん方のご協力のおかげで、実り多いイベントになったかと思っております。4人の発表の方々も、フロアの皆さま方のご質問にも随分答えていただきました。私たちの結論は、誰かが正解を知っているわけではないのです。正解がどこにあるかすら分らないです。私たちの活動一つ一つが正解をつくっていくための材料になっていく、そういうふうにいるわけなんです。だから、この世の中に正解があって、誰かが正解を指し示してくれると思ったら大間違いです。正解は、まだないんですから、私たちは一つ一つの活動の元にして正解をつくろうとしています。そういった途上にあることだと思って、ぜひ、皆さん方のお力をこの分野に集中していただけたらありがたいと思っているわけであります。

今日、この後、5時半から下の6階で、全国の介護する男性たちが語り合う会、交流会を予定しておりますので、そこでもこのイベントに引き続きいろいろな知恵を出し合って、交流しようではないかと思っていますので、ぜひご参加いただけたらと思います。事前予約でお申し込みを受け付けておりますので、ぜひ、3,000円をご持参いただいて、6階まで足を運んでいただきたいと思います。

3時間、長い時間になりましたけれども、本当にあっという間に、語り尽くすことができないほどの、また皆さん方もいろいろお聞きしたいこともたくさんあったかと思っておりますけれども、それもできずに終わってしまったことを非常に申し訳なく思っているわけですが、ひとまず今回のシンポジウムはこ

れをもって終わっていきたいと思います。4人のご報告者の皆さま方、どうもありがとうございました。

今日は、本当に多くの皆さま方に参加いただいて、東京、埼玉からも来ていただきましたし、九州からも、宮崎からいつものとおり河野さんご夫婦にも来ていただいて、本当ににぎやかなイベントになりました。

最後までお聞きいただきました皆さま方にも、心から感謝を申し上げたいと思います。このアンケートに必要な事項を書いていただきまして、できれば皆さまのご意見を私たちのホームページに載せたいと思いますので、掲載が可能かどうか、お名前を乗せてもいいかどうかお願いします。それでもって内容を豊かにしていきたいと思いますので、ぜひ、ご提案、ご意見をお聞かせいただきたいと思います。よろしくお願いします。